

## ニュースから考える

税理士の佐藤です。

年齢なみに疲れが溜まり、肩腰など故障箇所（老化）に苦戦している昨今・・・HPのバナー広告、TVや新聞の「お悩み解決商品」の広告が目にとまり「これを買ったら若いころのように・・・」と思ってしまうのは私だけではないようです。



コロナ禍の巣ごもり生活で思わぬトラブルが広がっています。「1回のお

試しで申し込んだつもりが、そのまま定期購入になっていた」、「知らぬ間に高額代金の請求を受ける」など、トラブルが急増しています。国民生活センターへの相談は健康食品や化粧品などを中心に、2020年の1年間で、およそ5万6,300件寄せられ、5年前の14倍となりました。

このような悪徳商法が増えている状況に政府は法改正で罰則規制を強化する予定です。税法もそうですが・・・悪時恵を考える人がいるから法律がどんどん複雑になって行きます。儲ければよいとの風潮は困ったものです・・・。

## 1分でわかる業務カイゼン

## 「資本主義の父」

NHK大河ドラマ「晴天を衝け」をご覧の方も多いのではないでしょうか・・・。ドラマの主人公は「日本資本主義の父」とも言われる渋沢栄一氏。幼少期から破天荒な人物だった様子が第1話では表現されていました。



資本主義（お金を集めて事業を行う）と言う概念がなかった時代、その礎が出来上がるまでの過程がどのように展開されるのかを楽しみに視聴するつもりです。

また、あと3年もすると給料日の皆さんの財布は渋沢栄一（1万円札）が主役です。今、100年に一度の混乱期に渋沢栄一が偶然にもドラマや実生活の主役となる機会に何かしらのヒントを学ばしましょう。

渋沢氏は本事務所通信にも度々登場しており現在の危機を乗り越えるための知恵として、既に発行済みのVOL-62（2015/04）を私自身も初めに帰る思いで現状のニュースや世相に対応すべく改編の上、皆さんと情報（思い）を共有したいと思います。

## 「商業道徳」

江戸時代の「士農工商」という身分制度を皆さんご存知だと思います。武士が偉く、商人が一番身分の低い者という事でしょうか・・・。

実際、「武士道」という究極の頂点を目指すという意味の言葉はありますが「商業道」という言葉はなく「商業道徳」、つまり商人には道徳が必要だと言われる程です。ドラマや映画での悪代官の「越後屋そちも悪よのう～」のセリフではありませんが・・・昔の商人は油断ならない存在だったのでしょ。



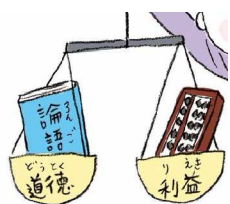
現代社会に無理やり当てはめると昔の「士」に相当する政治家や役人は、「農工（サラリーマン）」や「商（企業）」のためにインフラ整備、補助金などを用いた雇用対策・景気対策を行います。しかし、これは皆さんが治めた税金があってこそ成り立つ仕組みです（税金を自主的に納める制度は民主主義の基本です）。

一方、現代においては従業員を雇用し、税金を納める商人（企業・経営者）は資本主義社会において、まちがいなく主役級存在です。その商人が主役となる制度（資本主義）の設計図や日本経

済の基礎となる多くの企業を作ったのが渋沢氏です。

### 「実業道」

先ほど、商業道という言葉はないと書きましたが渋沢氏は商人には「実業道」が必要だと説明しています。渋沢栄一と言えば「論語と算盤」が有名です。



儲ける事は決して悪い事ではありません。その儲け方に道理に合っているか否かが重要と説明しています。先ほど紹介した「お悩み解決商法」はまさに悪い儲け方でしょう・・・

「何が儲かりそうではなく」・・・「世の中に何が**必要か**」という観点で渋沢栄一は500社以上(現在も実在する商工会議所、銀行、電力、鉄道、保険会社、ビール会社等)の企業を育て上げ日本経済に貢献しています。これは私たちが事業を行う上での大きなヒントと言えます。

確かに目先の儲けに目が行きそうです。しかし、お客様が喜ぶから私たちも儲けられるという商売の基本を思い出しましょう。

### 「国に頼らない」

コロナ禍で、持続化給付金詐欺が大きく問題となっています。国税職員、税理士、一般の学生等

こんなに多くの方が国への詐欺を平然と行う時代になったのかと大変な危機感を覚えるのは私だけではないでしょう。



明治の実業家で富国強兵政策や国家の庇護の中、数々の成功を収めたはずの渋沢氏ですが「**政府の力に頼らないでやるという気力を持たなければ駄目だ**」と後進の経営者に説明しています。これは江戸・明治時代を経験した渋沢氏の本音だと思います。

現在、コロナ禍で融資や補助金等で国が企業を支えています。しかし、何時までもそんな状態が続くわけはありません。自分の力で事業を遂行する・・・これは経営者にとって当たり前の責任です。

資本主義の本質を理解している渋沢氏は・・・

正しい方法(世の中に必要とされる事業で)で正しく儲ける(従業員に正当な給与を払う)

・・・それが「論語と算盤」、つまり「徳と利益」のバランスが保たれた商売の理想形なのだと思います。渋沢氏の提唱する日本式資本主義の原点に立ち返り100年に一度の経済危機を乗り越えましょう。

## 今月のことば

夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。

信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。

実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。

(渋沢 栄一)

### 編集後記:

岩崎弥太郎氏(三菱財閥)のように財産形成に積極的だったわけではない渋沢氏(渋沢財閥は存在しません)ですが人間らしい弱点があります。女性問題と放蕩息子・・・完璧な人間、完璧な父は存在しないという事を考えさせられるエピソードです。とは言え・・・日本国民が現在、豊かに生活できるのは幕末以後の混乱期に渋沢栄一という人物が日本式資本主義を築いたおかげだと私は個人的に思っています(寿)。

当事務所のお客様の最近の黒字決算割合(TKCが証明するデータを使用しています)

最近1年間: 84.2%

(国税局の発表によると法人の黒字割合は34.2%(29年4月~30年3月)です)